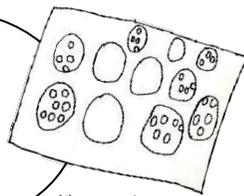


おかし屋ぱれっと 商品開発秘話



第5回

今回の商品開発秘話でスポットをあてるのは、工房ぱれっと（以下工房）で作られている、色々な生き物達のマスコット「ふれんず」シリーズです。「らぶらび」に比べると皆さんの認知度はまだ低いかもしれませんが、着実にファンが増えているように感じています。さてその「ふれんず」のマスコット達はいかに誕生したのでしょうか。「ふれんず」の誕生から携わっている玉井所長に色々とお話を聞きました。

誕生のきっかけのひとつは2017年、マレーシアで開催された展覧会「Warm heARTs」第2回目でした。主催者から「ネコ」と「ネズミ」のぬいぐるみ製作を依頼されたのです。そこで初めて「らぶらび」以外のぬいぐるみを製作したそうです。

もうひとつは工房に、障がい特性により会話が得意でないメンバーが通ったことです。交流を促すため、メンバーと職員が混ざって昼休みに「絵しりとり」をしてコミュニケーションをとっていました。私が感動したのは、その中で描かれた動物のシルエットを玉井さんが型紙に起こし、生まれたのが初代「ふれんず」だということです。その後はそのメンバーが「ワニさん」「ゾウさん」等、作りたいものを言葉や筆談で教えてくれるようになり、それに応じて種類が増え続けたそうです。今は動物だけに留まらず、「イチゴ」「バナナ」などの食べ物のマスコットもできました。

マスコットのボディは地域のボランティアの方々がいつも楽しみながら縫ってくださり、出来上がると工房へ届けてくださいます。ボランティアの協力は「ふれんず」や「らぶらび」制作の上で欠かせない力になっています。

最新作は「河童」です。これはお客様から「妖怪を作ってほしい」とのリクエストでした。これからも増えていく「ふれんず」シリーズをお楽しみに。



【愉快なふれんず大集合】

★工房ぱれっと、10周年★

年齢を重ね、おかし屋ぱれっと（以下おかし屋）での立ち仕事が大変なメンバーが少しずつ出てきたことから、座りながら働ける場所として、もの作りをメインにした工房が立ち上げられたのが10年前。しかしこの間、作業内容にも変化が出てきました。シブヤフォントの活動が始まり、おかし屋のメンバーも全員絵を描く作業をしたり、工房のメンバーがクッキーのシール貼りをしたり…おかし屋と工房が垣根なく、大きな製作チームとしてメンバーが行き来し活躍しています。自分の個性を活かして働ける工房は、高齢化や体力の低下に関係なく、誰にとっても嬉しい場所なのかもしれません。皆様これからの工房も楽しみにしててください。

(おかし屋・工房ぱれっと 宮越三映子)